

ほうざんこ
宝山湖ボールパーク構想

～宝山湖ボールパーク夢いっぱいプロジェクト～



令和3年12月

みとよ
香川県三豊市

● 経緯

三豊市では、令和元年度より「三豊市第2次総合計画」に基づき、教育・子育て・産業振興等の各分野において、日々の暮らしの中で豊かさや幸せを感じ、未来に夢を抱くことができるまちをめざしています。

令和3年度より施工する宝山湖公園グラウンド（三豊市山本町）の改修整備に伴い、スポーツを核に地域課題の解決を目的とした官民協働による地域活性化プロジェクトを企画するものです。

● 宝山湖公園グラウンド整備事業

【施設概要】

8面のジュニアサッカーコートが確保できるグラウンドは全国的に見ても貴重であるため、土日及び夏休み等の長期休暇は、ジュニアサッカーの練習場や大会会場として主に利用されています。長期休暇中には県外からの利用もあります。利用者数は、年間約26,000人。

【事業概要】

老朽化に伴う宝山湖公園グラウンドの改修整備にあわせ、プロサッカークラブ（カマタマーレ讃岐）の活動拠点及び市内外の利用者が積極的にサッカーやラグビーなど多種目のスポーツに打ち込むことができるハイレベルなスポーツ環境整備と地域のにぎわい創出を図ります。

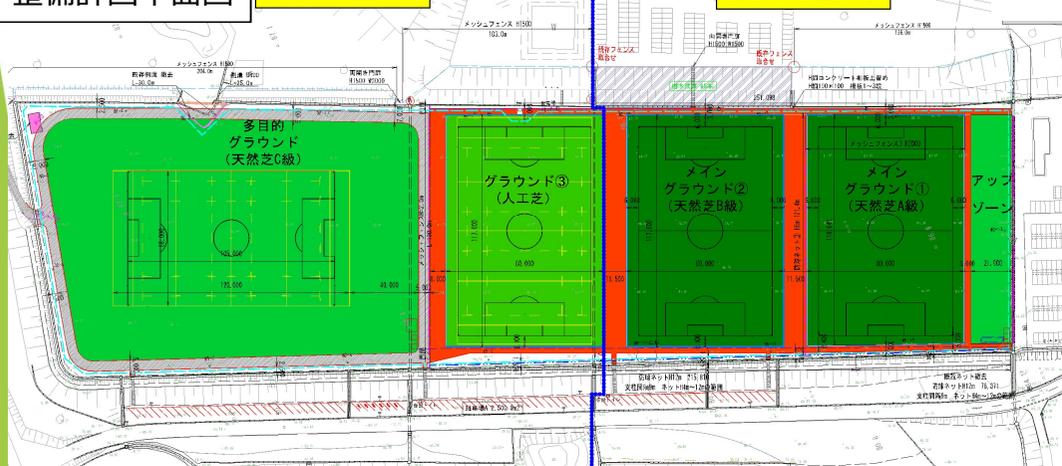
【工期】

令和3年度～令和4年度（令和5年秋の供用開始予定）

整備計画平面図

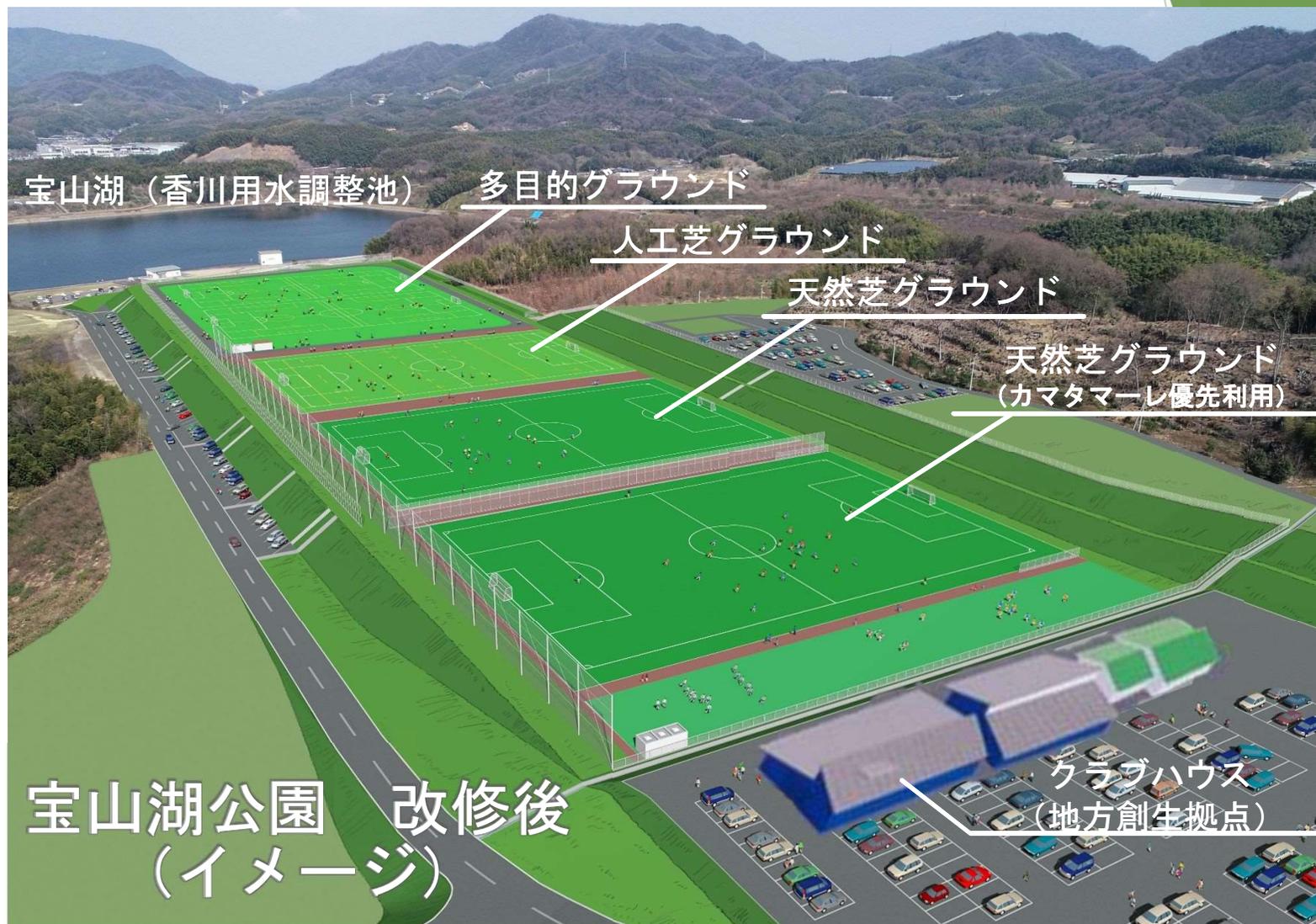
令和3年度工事

令和4年度工事



現況航空写真





宝山湖（香川用水調整池）

多目的グラウンド

人工芝グラウンド

天然芝グラウンド

天然芝グラウンド
(カマタマーレ優先利用)

クラブハウス
(地方創生拠点)

宝山湖公園 改修後
(イメージ)

●現状と課題（1）

- ▶ 少子化の深刻化により、市内中学校では団体競技の部活動が成立しなくなり、子どもが希望する部活動に入ることができず、子どもにとって選択肢や才能の発揮機会が制限されています。

- ▶ 特にサッカーは、子どもたちが高い関心を寄せるスポーツであるにもかかわらず、市内中学校7校のうち2校しかサッカー部を有する学校はなく、小学校までスポーツ少年団でサッカーに打ち込んできた子どもの多くは、志半ばで違う部活動を選択せざるを得ない状況となっています。

市内中学校生徒数は、この10年間で約20%減少

市学校教育課（各年5月1日現在）出典

「三豊では夢をかなえることができない」、
「三豊には選択肢やチャンスがない」と感じた子どもたちが市外へ転出し、人口減少や少子高齢化がさらに加速するおそれがあります。



●現状と課題 (2)

- ▶ 三豊市の高年齢化率は、36.2%と高く、全国平均28.4%と比較して高い水準となっています。(令和元年10月1日時点)
- ▶ 市特定健診の結果、生活習慣病予備軍と言える市民が多くなっています。

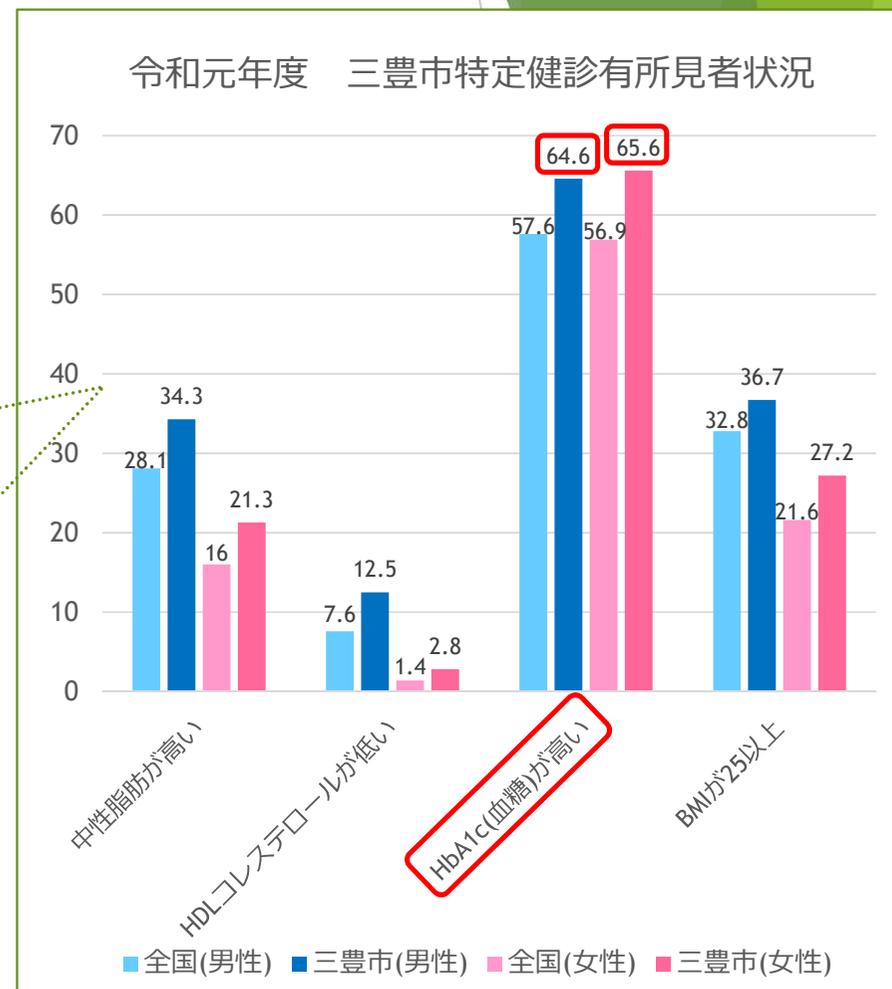
出典：内閣府「令和2年版高齢社会白書」、香川県「令和元年香川県人口 移動調査」

男女ともに「中性脂肪が高い」、「HDLコレステロールが低い」、「HbA1c(ヘモグリアンA1c)が高い」、「BMIが25以上(高い)」の人の割合が全国に比べて高い。

特に血糖値状態を把握し、糖尿病予防に役立てる数値である「HbA1c」は、市において予防啓発や保健指導に積極的に取り組んでいることで減少傾向にあるものの男女とも全国平均を大きく上回っている。

これらの指標は、動脈硬化を進める危険因子であり、脳・心臓・腎臓の血管では特に進行しやすく、放置していると致命的な病気を引き起こすため、日々の生活に運動を取り入れるなど生活習慣の改善を行うことが重要。

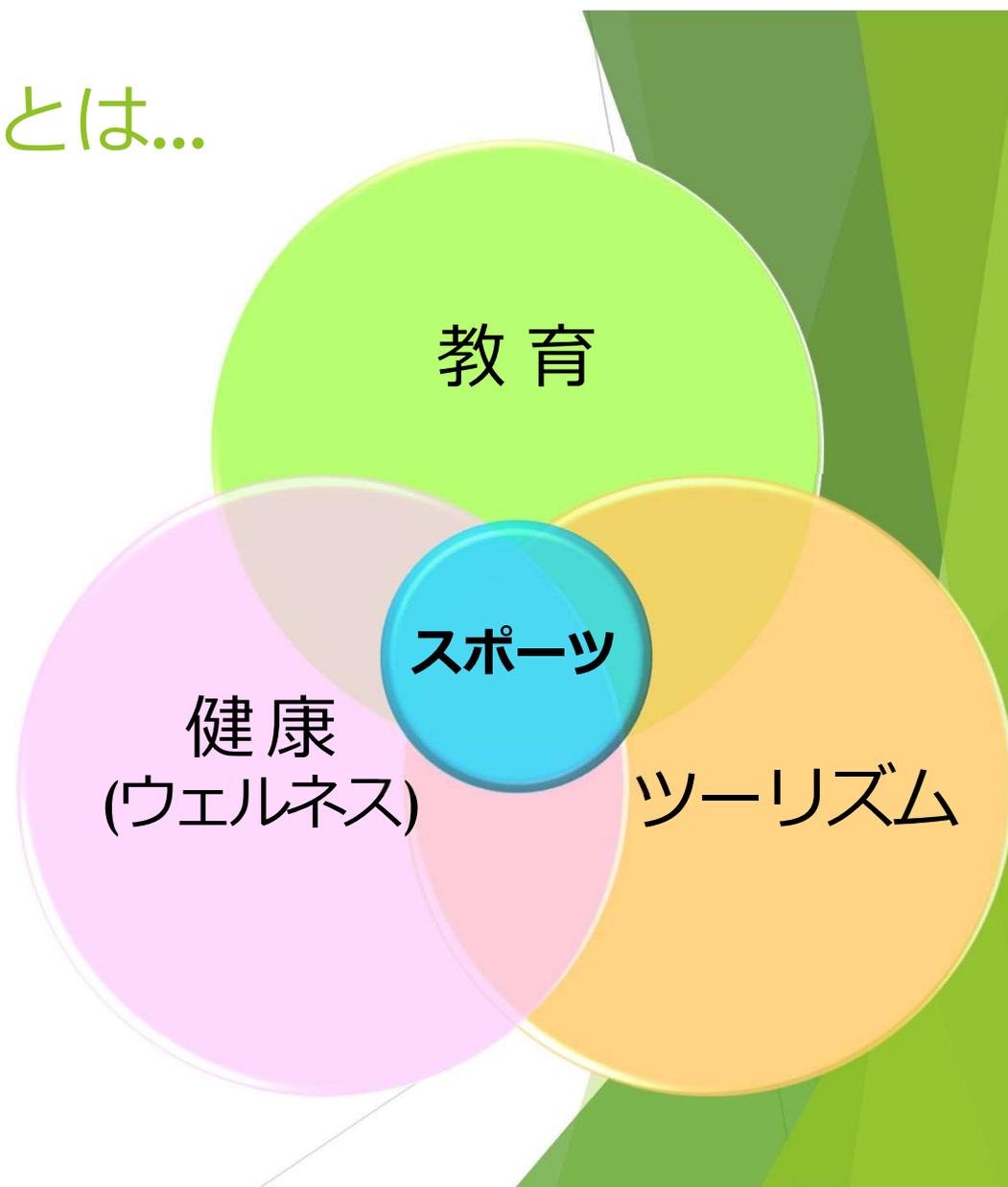
将来的に、**高齢化の加速や生活習慣病の発症・重症化により医療費をはじめとする社会保障費の増大**が懸念されています。



●宝山湖ボールパーク構想とは...

プロサッカークラブのカマタマーレ讃岐とのパートナーシップのもと、宝山湖公園を高水準なスポーツ施設へと整備するとともに、民間活力の活用によりスポーツを核とした「教育」、「健康」及び「ツーリズム」など多角的な事業を展開することで、夢を実現できる人材育成や市民の健康づくり、地域産業の振興、カマタマーレ讃岐の早期J1昇格をめざす「宝山湖ボールパーク夢いっぱいプロジェクト」に取り組みます。

スポーツ×民間活力
=夢・健康・学びの実現



●事業スキーム「宝山湖ボールパーク夢いっぱいプロジェクト」

